



近江の古瓦 VI 湖南 2

湖南地方の2として、草津市内出土の古瓦について述べましょう。草津市内では芦浦、下物、下寺、志那中、北大萱、南笠に古瓦の出土地があります。このほか長束と片岡で古瓦が出土していますが、長束と芦浦、片岡と下寺を同一寺院のひろがりとして、長束は芦浦に、片岡は下寺に一括しました。

芦浦の観音寺には同寺域から出土した古瓦があります⁽¹⁾。これは素弁8葉で稜線があり、弁端は反転しているようです。中房は小さく蓮子は1+5と思われます。外縁は不明です。長束では複弁8葉で鋸歯文縁の小形の瓦が出土していますが、あるいは種木先瓦かとも思われます⁽²⁾。中房部分は欠けています。

下物の花摘寺跡からは数種の瓦が出土しています。軒丸瓦はすべて複弁8葉のものです。外区に珠文帯をもたないものに、鋸歯文縁のもの⁽³⁾、X字文縁のもの⁽⁴⁾2種類があり、共に中房は大きく、蓮子は1+5+11です。外区に珠文帯のあるものは1種類で⁽⁵⁾斜めに立上がる外縁の斜面に鋸歯文があり、珠文帯の珠文は40を数えます。蓮子は1+5+9です。これと対をなす軒平瓦として、小破片ですが扁行忍冬唐草文のものがあります⁽⁷⁾。また、瓦当面が特別に作られておらず、平瓦の端部に花模様を連続したような文様の軒平瓦があります⁽⁶⁾。あるいはこれが珠文帯のない軒丸瓦と対をなすのかもしれませんが。これらの瓦の示す時期はすべて白鳳時代ですが、珠文帯のない川原寺式のもの、珠文帯のある藤原宮式のものよりは古くなるようです。

下寺から片岡にかけての遺跡出土の瓦では、軒丸瓦に素弁8葉と推定されるものと、複弁

8葉と思われるものがありますが、共に破片であるため全容は不明です。素弁のものには、稜線があり弁端は反転しやや扁平な弁のものと⁽¹⁰⁾、稜線の有無は不明で、ややずんぐりしたものがあり⁽⁹⁾、外縁は共に素文の平縁のようです。複弁のものは鋸歯文縁がめぐる破片です⁽⁸⁾。いずれも中房部分は不明ですが、別に蓮子が1+7+8の中房だけの破片があります⁽¹¹⁾。また、素弁で鋸歯文が外周にめぐっている鬼瓦と思われる小破片があります⁽¹²⁾。軒平瓦では重弧文の破片が片岡で発見されているようです。

志那中には天武天皇勅願の寺伝のある大般若寺とよばれる寺院遺跡があり、ここでは複弁8葉で鋸歯文縁の軒丸瓦が出土しています⁽¹³⁾。また、「滋賀県史蹟名勝天然記念物概要」には、外区に珠文帯をめぐらした唐草文の軒平瓦が掲載されていますが⁽¹⁴⁾、これは現物が不明です。

北大萱の宝光寺も天武天皇に関連した寺伝をもつ寺院ですが、その遺跡から最近多くの古瓦が発見されました。また瓦積基壇も見つかっています。ここでは軒丸瓦が9種類、軒平瓦が5種類もあり、しかも軒平瓦は重弧文ばかりというように、比較的短い期間に多様な瓦が使われているようです。まず軒丸瓦ですが、稜線のある素弁で、中房は小さく蓮子が1+8と思われるものが2種類あり、外縁が無文のもの⁽²¹⁾と幅線文をもつもの⁽²²⁾に区別されます。また同じ素弁ながら弁の幅が広く、中房も大きくて、蓮子は中心の1個をかこんで方形に8個並び、すべて円圈のあるものがあります⁽²³⁾。これの外縁部は欠失して不明です。次に単弁8葉の特殊な瓦があります⁽²⁴⁾。弁の中央に稜線があり、子葉は輪郭線で区切られ、

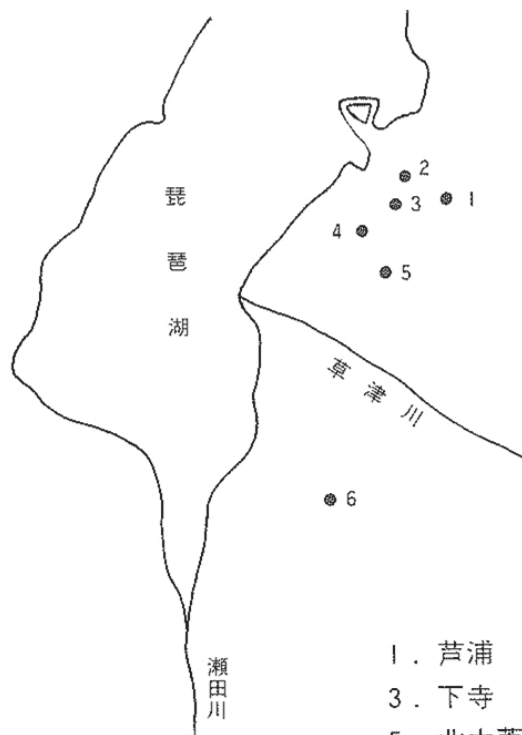
しかもこの線は基部で左右に連絡しています。間弁はT字状で、内区と外縁の間には溝があり、前述の稜線は弁端からこの溝にのびて外縁に達しています。中房は小さく蓮子は1+6で、中房と弁の間にも溝があるようです。これは他に例がありません。鋸歯文縁の複弁8葉のものは、中房が大きくて蓮子が1+5+11のものと⁽²⁵⁾中房が前者よりは小さくて蓮子も1+6のもの⁽²⁶⁾2種類があります。これとよく似たもので、蓮子が1+8の複弁8葉のものがありますが、⁽²⁷⁾これは外縁部が不明です。また、細い弁が26葉あり、蓮子の数も多く外縁に鋸歯文をもつ特殊なものが見られます。⁽²⁸⁾さらにここでは非常に特殊な文様の軒丸瓦が出土しています。⁽²⁹⁾3弁が中房をはさんで十字につくられ、その間に、円周と中心を輻線で結んだ円形が各1個ずつあり、余白を細線で埋めています。中房には蓮子が24個雑然と作られています。外縁は内外に斜面をもち、その両面に鋸歯文があります。この瓦当文様が北大萱と大津市瀬田の南大萱だけで見られ

ることは注目すべきことでしょう。遠く離れているこの両地の地名が同じ大萱に南・北とつけていることと、特殊な瓦当文様の瓦が出土することは、何か関係がありそうですが、これを究明するのは今後の課題でしょう。軒平瓦は前述の如くすべて重弧文です。そして三重弧⁽³⁰⁾⁽³¹⁾と四重弧に、⁽³⁰⁾⁽³¹⁾それぞれ弧の形が断面半円形のもの⁽³⁰⁾とコの字形のもの⁽³¹⁾があります。それに五重弧のものが加わります。⁽³⁴⁾なお、琵琶湖をへだてた大津市南滋賀出土の方形瓦と同様のものが1片出土していますが、⁽³⁵⁾守山市の赤野井や欲賀の遺跡でもこの種のものがごく少量ながら出土しており、これまた注目すべきことです。

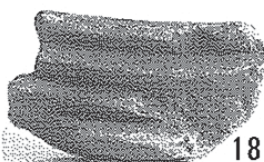
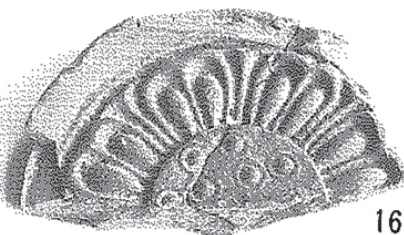
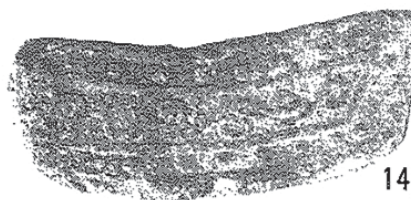
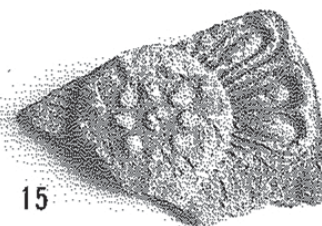
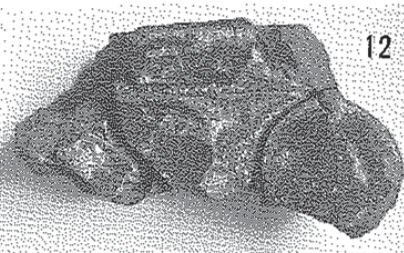
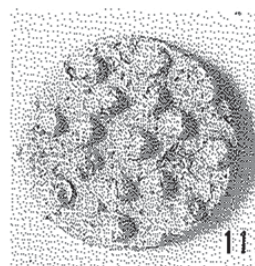
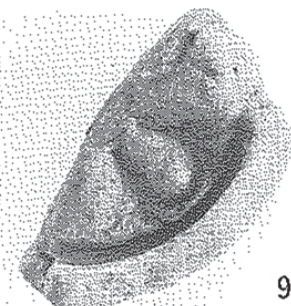
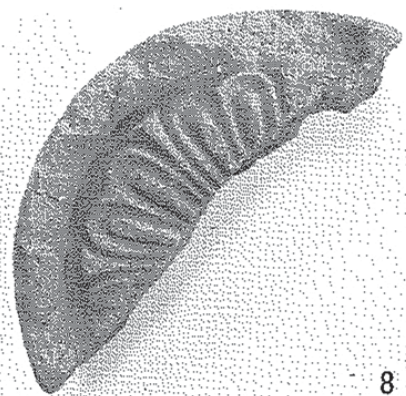
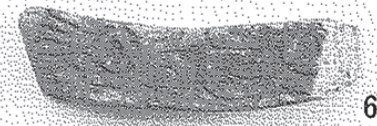
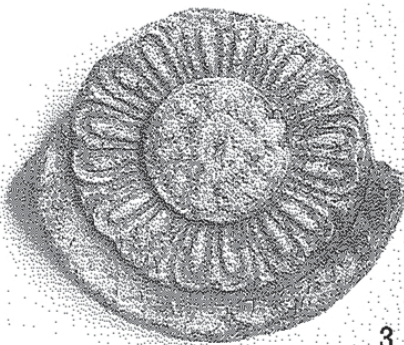
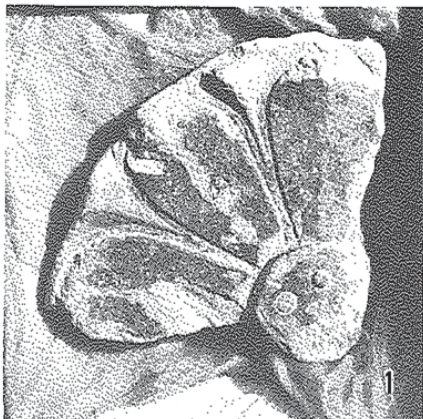
南笠の妙楽寺を中心とした地域でも古瓦が出土し、これは笠寺の遺跡であろうと言われてきました。軒丸瓦では複弁8葉のものが2種類あります。いずれも中房は大きく、蓮子は一が1+8+12又は13と思われ、⁽³⁶⁾他は半ばが欠失しているので正確な数が不明です。⁽³⁶⁾後者の蓮子はすべて円圏で囲まれています。前者の外縁は欠失して不明ですが、後者のものは素文の平縁のようです。このほかにもう一種疏な珠文帯があり中房を欠く破片がありますが、⁽³⁷⁾これの蓮弁部分は磨滅がひどく、単弁か複弁か確言しかねます。軒平瓦では四重弧文のものが2種ありますが、一は狐の断面が三角形をなす特殊なもので、⁽³⁸⁾他は瓦当面に3本の凹線を入れて重弧文をあらわしています。⁽³⁹⁾さらに飛雲文の軒平瓦がありますが、⁽⁴⁰⁾これと対をなす軒丸瓦は未発見です。これらの瓦の示す時期は白鳳時代から奈良時代にかけてと思われるかもしれませんが、磨滅のひどいものはあるいは平安時代まで降るかもしれません。(文中括弧内の数字は写真番号を示します。)

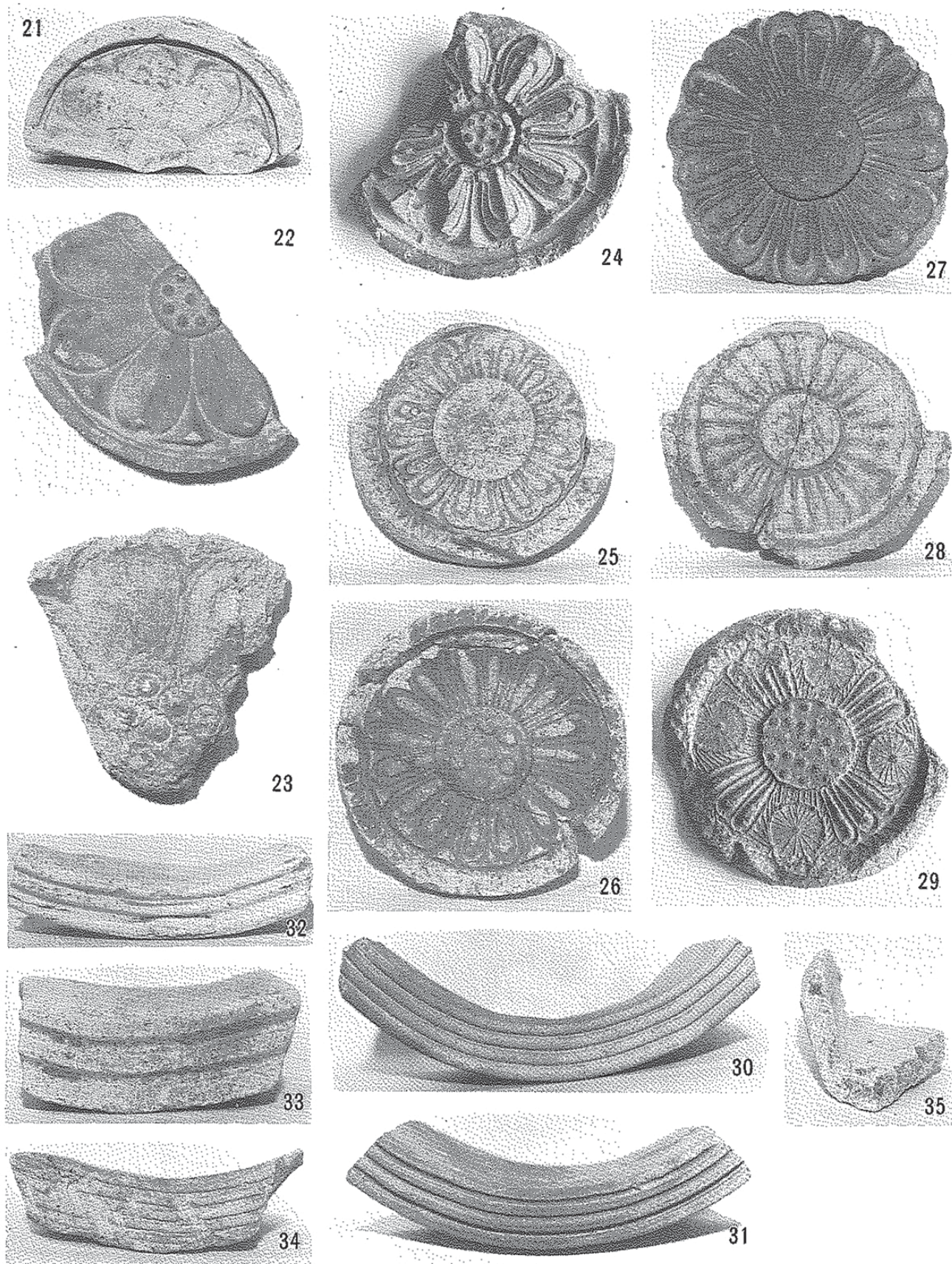
(西田 弘氏提供)

古瓦出土地位置図



- | | |
|--------|--------|
| 1. 芦浦 | 2. 下物 |
| 3. 下寺 | 4. 志那中 |
| 5. 北大萱 | 6. 南笠 |





写真説明

1、2 芦浦(長束)出土(1は田中日佐夫氏写真) 3～7 下物出土 8～12 下寺出土
 13～14 志那中出土 15～20 南笠出土 21～35 北大萱出土